

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

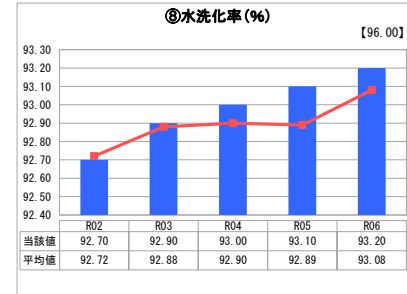
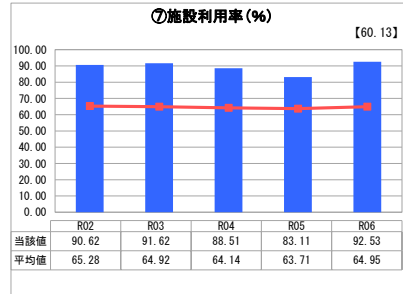
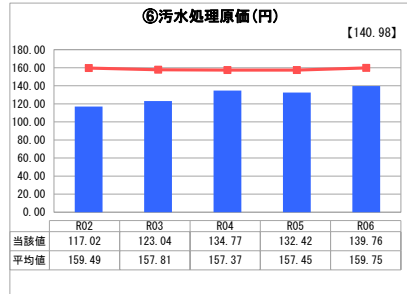
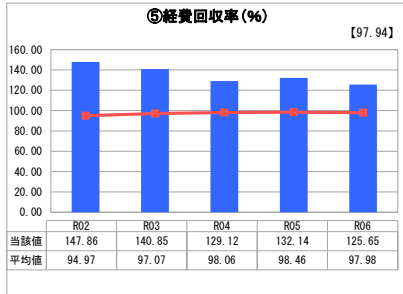
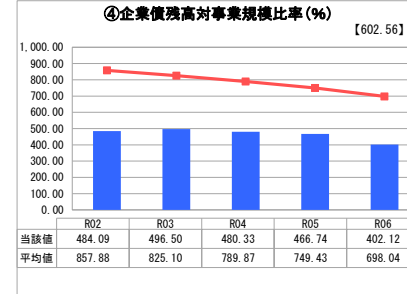
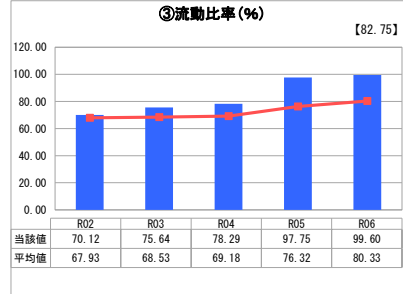
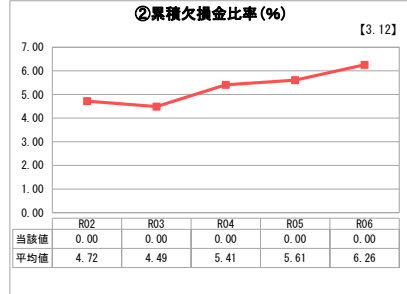
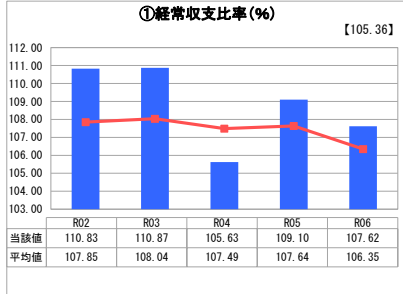
千葉県 茂原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	76.46	35.72	69.61	3,080

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
85,861	99.92	859.30
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,583	8.25	3,707.03

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[ ] 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%以上を維持しているが、施設の老朽化や昨今の物価高騰の影響に伴う費用の増大が見込まれる一方、人口減少に伴う使用料収入の減等が予測されることから、費用の削減に努めるとともに使用料改定の必要性についても検討していく必要がある。

②流動比率は100%未満であるが、流動負債の主なものは翌年度に償還する建設改良費等の財源に充てるための企業債であり、償還年度に見込まれる収入などが償還に充てられるため、当面の支払能力には問題ないと考えられる。

③経費回収率は100%を超えていることから、汚水処理費を使用料収入で賄えている状態であるが、諸物価高騰による影響や更新費用の増大、また人口減等に伴う使用料収入の減等が今後も見込まれることから、適正な財源の確保に努めていく必要がある。

④汚水処理原価は類似団体平均を下回っており、今後も効率的な汚水処理を実施し維持管理費の抑制を図る。

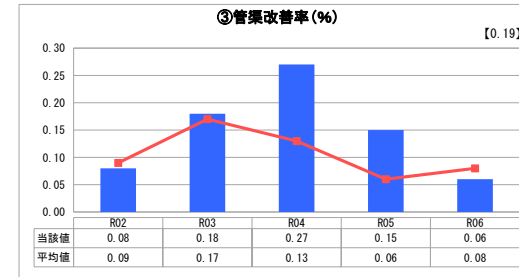
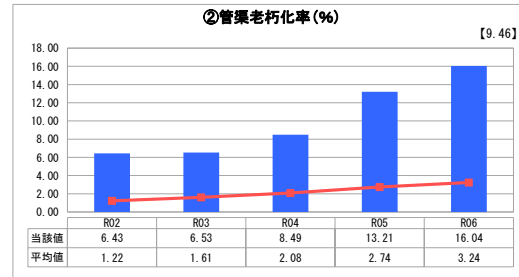
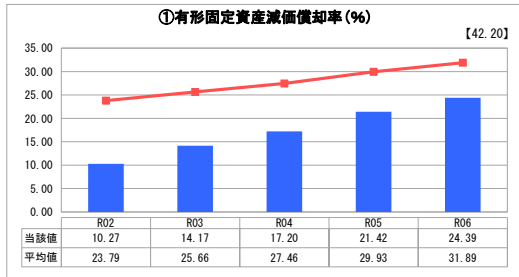
⑤施設利用率は平均値を上回っており、施設の利用状況及び施設規模は適正であると考えている。

⑥平均程度の水準であるが、水洗化促進の取り組みを継続し、使用料収入を確保していく。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始後50年以上が経過し、各施設の老朽化対策として、ストックマネジメント計画に基づき、計画的・効率的に改築・更新を実施しているところである。今後も長期的な視点で状況を見直し、安定的な施設運営に努めていく。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

経費回収率及び経常収支比率はやや減少傾向にあるが100%を上回り、経営は良好であると言える。今後は、施設の老朽化に伴う改築・更新に多額の費用が必要となる一方で、人口減少に伴う使用料収入の減等が見込まれることから、効率的な投資計画及び財源の確保、事業運営に係る経常的な経費の削減とともに、適正な使用料設定となっているか等の検証を行い、更なる経営基盤の強化に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。